取扱説明書

電源付カーオーディオケース

LE801 -GW -BW

2014.06-9100010

安全のために必ず守っていただくこと

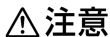
■ 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、警告、注意の表示にて区分して説明しています。
■ 表示の意味は表中で説明しています。

■ 図記号の意味は次の通りです。

	絶対に行わないで下さい。		必ず指示に従って下さい。

⚠警告	誤った扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの		
禁止	この製品は付属の AC アダプターを使用してください。それ以外は使用しないでください。(感電、火災の原因)	禁止	この製品は、屋内用です。屋外、直射日光の当たる場所、振動のある場所、衝撃のある場所、湿気の多い場所、水のかかる場所、水分が付着し凍結する環境、粉塵の多い環境では使用しないでください。(絶縁不良、感電、火災、落下等の原因)
	電線を接続する場合、ゆるみ、抜け、外れのないように確実に接続してください。(感電、火災の原因)		硫黄成分を含む温泉地や工場、酸などの腐食性ガス 発生の可能性がある環境、海上や臨海部などの重塩 害地帯や重工業地帯では使用しないでください。 (絶縁不良、感電、火災、落下等の原因)
	防爆形ではありません。可燃性ガスのある環境では使用しないでください。(発煙・発火の原因)		
	布や紙などの燃えやすいもので覆ったりしないでください。(発熱・火災の原因)		大音量で動作させないでください。 (耳を傷める原因)
	設置の際には電線を挟まない又は接触させないでください。(絶縁不良により感電・火災の原因)	厳守	製品重量に十分耐える場所に設置してください。(火災・落下の原因)
	この製品の改造及び構成部品の交換は、絶対に行わないでください。(感電、火災の原因)		取付け、取外しや清掃のときは、必ず電源を切り、プラグをコンセントから抜いてください。(感電・やけどの原因)

⚠警告　誤った扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

禁止	コンセントの工事は電気工事に関する資格を有する者による工事が必要です。お客様自身が電気工事に関する資格をお持ちでない場合には、そのような工事を絶対に行ってはいけません。	厳守	屋外アンテナを接続する際には、アンテナ工事の専門業者にご相談ください。また、必ず雷対策を実施してください。

⚠注意　誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつく可能性があるもの

禁止	製品を傷めるひっかき、強い衝撃、化学的処理等は避けてください。（割れ、欠けの原因）	厳守	この製品はメンテナンスフリーではありません。通気孔が埃などでふさがらないよう、清掃してください。 1 年に1 回は点検をお勧めします。（使用状態により内部部品の劣化）

異常時の処置

⚠警告　誤った扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

厳守	異常を感じたときは、必ず電源を切ってACプラグをコンセントから抜いてください。（火災・感電の原因）	厳守	煙が出る/変な臭いがするなど異常を感じた場合はすぐ電源を切ってACプラグをコンセントから抜き、販売店または弊社連絡先にご相談ください。

お客さまへ

このたびは弊社製品をお買い上げくださいまして誠にありがとうございます。
製品の使用に際しましてはこの「取扱説明書」を必ずお読みのうえ、正しくご使用くださいますよう、お願い申し上げます。

LE801 の概要

LE801 は、カーオーディオを家庭用のオーディオ装置として使用するためのケースです。
１DINサイズのカーオーディオをケース内に収納し、家庭用の 100V コンセントを電源として使用することが可能となります。

特徴

- カーバッテリーを使わずに、AC アダプターを通して家庭用 100V コンセントからの電源供給が可能となります。
- 背面に装備されたスピーカー接続端子により、スピーカーの配線が容易です。
- カーオーディオを使用しない時には電源がスタンバイ状態となり、カーオーディオの時計動作、機能設定状態を維持します。
- 電源スイッチには照光式トグルスイッチを採用しており、デザイン性、視認性に優れています。
- サイドウッドを装備しており、室内インテリアとしても違和感のない家具調仕上げです。

お願い

- この製品は環境温度が 5℃～40℃の範囲で使用してください。これ以外で使用しないでください。
- 万一、煙や異臭等の異常が見られた場合はすぐに電源を切って販売元にご連絡ください。
- 本機についた汚れは、柔らかい布に薄めた中性洗剤をつけ、よくしぼってから拭きとってください。また、汚れを拭きとった後に、洗剤成分も拭きとってください。
- シンナー、ベンジン等有機溶剤、アルカリ、弱酸性、塩素系洗剤では拭かないでください。変色、劣化等の原因となります。

保証

保証期間は商品お買い上げ日より1 年間です。
保証内容は保証書でご確認ください。

目次

内容物の確認

内容物が揃っているかご確認ください。

■LE801 ケース

・本体ケース

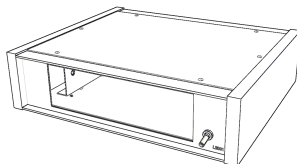
・レシーバー取り付け金具関連

以下金具類は本体に取付けてあります。

レシーバー取付け金具（左右各 1）

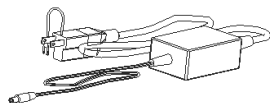
金具固定用ナット×4

ワッシャ（シルバー）×4

樹脂ワッシャ（黒）×4

■AC アダプター関連（小箱）

AC アダプター×1

AC コード×1

3P→2P 変換プラグ×1

AC アダプター　AC コード　3P→2P 変換プラグ

■レシーバー取付けネジ類（ビニル袋に内包）

これらネジはレシーバ付属ネジがない場合のみ使用します。

タップネジ（シルバー）×4

ミリネジ（黒）×4

ワッシャ×8

タップネジ　ミリネジ　ワッシャ

■配線用品（ビニル袋に内包）

絶縁用スリーブ×2 個

結束バンド×3 本

スリーブ　結束バンド

はじめに

LE801 は、市販のカーオーディオ（1DIN サイズ）を組み込んで使用するためのケースです。組み込む対象となるカーオーディオ本体のご用意および LE801 への組み込みにつきましてはお客様自身による作業が必要となります。

お手持ちのカーオーディオや新たにご用意いただくカーオーディオが LE801 への組み込みに適応しているかご不明の場合には、LE801 お買い上げの販売店または弊社までご相談ください。

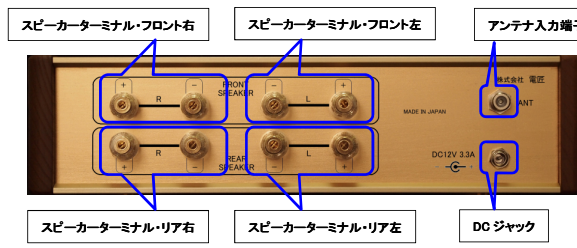
組み込み可能なカーオーディオについて

LE801 には、次の各条件すべてに合致したカーオーディオのみが組み込み可能です。ご確認の後、組込作業を行ってください。

- ✓ 一般市販の 1DIN サイズレシーバーであること（自動車メーカーの純正品は取り付けできないことがあります）
- ✓ 取り付け寸法が 幅 178mm、高さ 50mm であること（1DIN サイズ）
- ✓ 取り付け奥行きが 170mm 以下であること
- ✓ 電源方式がマイナスアース方式で、12V 車用であること
- ✓ スピーカーを接続駆動できること
- ✓ 配線末端にぎぼし端子がついていること

LE801 各部の名称

フロントパネル

リアパネル

カーオーディオの組み込み

LE801 へのカーオーディオの組み込みは 17 ページ以後「レシーバー組込み手順」をご覧になり、手順を追って組み込んでください。
組み込み完了後、LE801 とスピーカーを結線してください（組込み前に LE801 とスピーカーを結線しないで下さい）。

スピーカーの結線

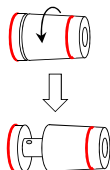
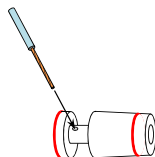
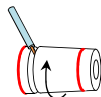
LE801 の背面に設けられたスピーカーターミナル（陸式端子）に、お手持ちのスピーカーを接続します。次ページにスピーカーの位置とスピーカーターミナルの接続全体図を示します。

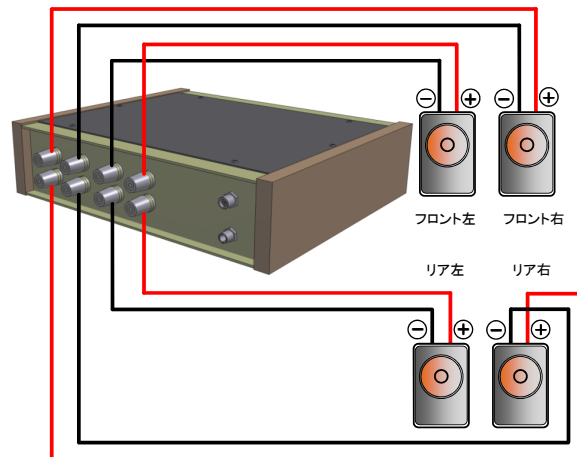
スピーカーコードの準備

使用するコードには AWG20（断面積 0.5sq）以上の電線をおすすめいたします。また、スピーカーターミナルに差し込むコードの剥き出し部は十分捩じっておき、コード素線がほどけて隣接するターミナルに接触しないよう、ご注意ください。
左右、前後のスピーカーは所定のターミナルに結線します。その際、スピーカーの極性（＋、－）を間違えないよう、ご注意ください。

スピーカーコードの先端 20mm 程度の被覆を剥き、素線部分を捩じってからスピーカーターミナルの横穴に差し込む

スピーカーコードの接続

1. LE801 の背面のスピーカーターミナルを反時計方向に回し、スピーカーコードを差し込む穴が見えるようにします。

2. スピーカーターミナルの穴にスピーカーコードを差し込みます。スピーカーの設置場所と接続するスピーカーターミナルとの位置関係は次のページをご参照ください。

3. スピーカーターミナルを時計方向に回してスピーカーコードを固定します。
このとき、ペンチなどの工具を使わず、必ず手で締めてください。工具を使用するとスピーカーターミナルを破損する恐れがあります。

4、スピーカーコードを軽く引き、抜けないようでしたら接続完了です。
他のスピーカーのコードも以上の手順で接続します。

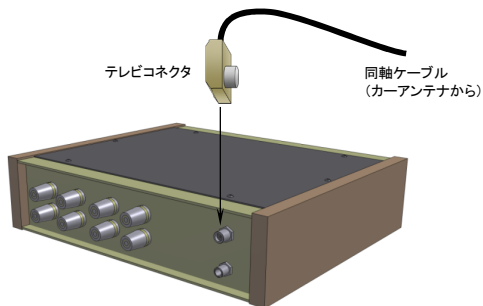
スピーカーの接続全体図

<ヒント>スピーカーは、LE801 に組み込んだカーオーディオの取扱説明書が指定するインピーダンスの物をご利用ください。指定のインピーダンスが不明の場合、4Ω以上で最大入力 40W以上の物を接続します。
しかしながら、一般的な家庭室内で適度な音量で動作させているときのスピーカーの入力電力は数Wですから、ほとんどのホームオーディオ用（6～8Ω）、カーオーディオ用のスピーカーを接続することができます。
尚、ツィーターを接続する場合には、ツィーターが指定するネットワークも接続してください。

<ヒント>本図はフロントとリアにスピーカーを結線していますが、フロントのみ1組のスピーカーでも動作させることができます。この場合には、カーオーディオの FADE 設定（フロントとリアの音量配分の調節）は正しく機能いたしません。

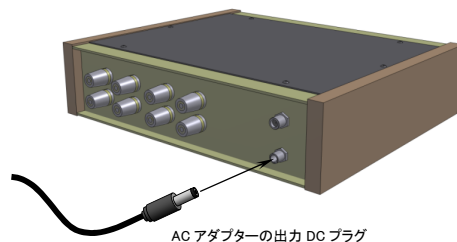
<ヒント>背面のスピーカーターミナルにスピーカーコードを接続するとき、コードの先端を捩じってコードの素線をまとめておきます。これにより、スピーカーターミナルの穴にコードを差し込みやすくなり、コード素線のほつれも防ぐことが出来ます。

アンテナの接続

カーオーディオのラジオ機能を用いる場合には別途カーアンテナをご用意いただき、LE801 に接続してください。
アンテナからの同軸ケーブルは、LE801 背面の F コネクタに接続します。テレビコネクタ（別途ご用意ください）を用いると、容易に LE801 の F コネクタと接続することが出来ます。

テレビコネクタと同軸ケーブルの詳しい接続方法は、テレビコネクタの取扱説明書に従ってください。
屋外に設置した FM アンテナを接続すると、FM 放送の受信状態が改善されます。ただし、この時には AM 放送の受信ができなくなりますのでご注意ください。

厳守	屋外に FM アンテナを設置すると受信状態が良好となりますが、屋外 FM アンテナの設置は FM アンテナを取り扱う専門店に設置工事を依頼し、必ず雷対策を施してください。

DC プラグの接続

AC アダプターの AC プラグがコンセントから抜けていることを確認してから、AC アダプターの出力 DC プラグを背面の DC ジャックに差し込みます。

LE801 の操作方法

1、LE801 にお手持ちのカーオーディオを組み込み、スピーカーや AC アダプターの出力 DC プラグが正しく配線されていることを確認してください。

2、ON/STANDBY スイッチのレバーが下向きであることを確認してから、AC プラグをコンセントに挿入します。すると ON/STANDBY スイッチの先端が赤色に点灯します。

3、ON/STANDBY スイッチの先端が赤色に点灯しているときは、カーオーディオが STANDBY 状態となっていることを示しています。これはカーオーディオが自動車に搭載されていたときに、自動車のエンジンキーが OFF の状態（自動車のエンジンが停止し、キースイッチが抜かれている状態）に相当します。

4、ON/STANDBY スイッチのレバーを上向きに倒すと、スイッチ先端の光が緑色に変化し、カーオーディオが ON 状態となります。これは自動車のエンジンキーが ACC または ON（エンジン運転中）の状態に相当し、カーオーディオが動作している状態です。
カーオーディオの機能によっては、LE801 を ON 状態にした後、さらにオーディオ装置自体の電源 ON 操作を必要とする機種もありますので、お手持ちのカーオーディオの取扱説明書でご確認ください。

5、LE801 にカーオーディオを組み込んだ後、最初に ON/STANDBY スイッチを ON としたときには、一般的なカーオーディオでは初期設定入力を要求します。初期設定は組み込まれたカーオーディオの取扱説明書に従って必要な操作を行ってください。

6、カーオーディオの動作を停止するときには、演奏中の CD やカセットテープを取り出した後、ON/STANDBY スイッチを下向きにします。AC プラグはコンセントに挿入したままとします。

7、ON/STANDBY スイッチを下向きとした時の待機電力は、搭載されたカーオーディオによって違いますが、概ね 1W 以下です。待機電力を全く無くしたい場合には、AC プラグをコンセントから抜いてください。ただし、AC プラグをコンセントから抜くと、次回に ON/STANDBY スイッチを ON にしてカーオーディオを動作させた時には、初期設定やその後に実施した各種動作設定を再び行う必要があります。

8、音量、音質、音源切替など、カーオーディオの機能操作については、組み込んだカーオーディオの取扱説明書に従ってください。

＜ヒント＞一般的には、カーオーディオの初期設定で必ず必要になるのは時計の設定です。その他には音質やスピーカー前後左右の音量バランス、ラジオの選局設定などがあります。

＜ヒント＞次のような動作不具合が認められた時には組込手順書に戻り、配線を確認してください。

・ON/STANDBY が下向きであるのにカーオーディオの電源が入る
　→　ギボシ端子の赤と黄色の配線が逆になっている可能性があります

・スピーカー音量のバランス調整で左右、前後の調整がカーオーディオの操作と一致しない
　→　ギボシ端子の白・灰・紫・緑の配線が間違っている可能性があります

・アンテナをつないだのにラジオが聞こえない
　→　アンテナプラグが奥まで差し込まれていない可能性があります

LE801 ご使用にあたっての注意

LE801 は、一般家庭の室内で使用することを想定して設計されているため、多くの人が集合する公共スペースなどでの拡声装置として用いることはできません。組み込まれたカーオーディオの出力音量が過大になるとLE801 の電源保護機能が働き、電源供給を停止します。長時間にわたってこのような状態が続くと、LE801 や搭載されたカーオーディオの故障をまねく恐れがあります。再生音が途切れ途切れになったり、ひずむことが多い場合には、カーオーディオのボリューム設定を下げて適切な音量で動作させてください。

動作中に AC アダプターの出力 DC プラグを引き抜かないでください。移設などでACアダプターのDCプラグを引き抜く場合には、必ず本体前面パネルの ON/STANDBY スイッチのレバーを下げて STANDBY 状態とし、さらにコンセントから AC アダプターの AC プラグを引き抜いた後、ACアダプターのDCプラグを引き抜いてください。
AC アダプターの AC プラグがコンセントに差し込まれた状態では AC アダプターの DC プラグに電圧が生じており、万一 DC プラグが周囲の金属部に接触したときに大電流が流れることがあり、火災が発生する恐れがあります。

お手入れについて

お手入れの時にアルコールやシンナーなどの有機溶剤を使用しないでください。変色や印刷・塗装剥離の恐れがあります。また、引火の恐れもあり、たいへん危険です。
LE801 に付着した埃は柔らかいブラシ、刷毛などを用いて掃ってください。
ブラシや刷毛で取りきれない汚れは、薄めた中性洗剤にウェスを浸し、硬く絞った後に汚れを落としてください。
使用する環境によって埃の付着する度合いが異なるので一概にはいえませんが、1 年に一度くらいの頻度で天板を外して内部の埃を取っておくと、各部の点検にも役立ち、常に安定した動作を保つことができます。

仕様

シリーズ名		LE801
対応カーオーディオ		以下の条件に合致したカーオーディオ ・一般市販の 1DIN サイズカーオーディオで ・取付寸法が以下のもの 　幅　178mm、高さ 50mm 　奥行き 170mm 以下 ・電源方式 　マイナスアース方式の 12V 車用であること ・機能 　スピーカーが接続駆動可能であること
カラー	フロントパネル	シャンパンゴールド （-GW） またはブラック （-BW）
	サイドカバー	天然木目
	天板、底板	ブラック
表面処理	フロントパネル	アルミヘアライン
	サイドカバー	クリア塗装
	天板、底板	塗装
主素材	フロントパネル	アルミ
	サイドカバー	天然木
	天板、底板	スチール
スイッチ/LED	前面	オン/スタンバイ LED はスイッチに内蔵（オン：緑、スタンバイ：赤）
スピーカー端子	背面	フロント/リアスピーカー用端子（陸式）
アンテナ端子	背面	F 型コネクタ
DC 入力端子	背面	専用端子×1
サイズ（本体）		280mm×70mm×260mm
質量（本体）		2.0kg
付属品		専用取り付け金具、AC アダプター12V/3.3A

■　本書に記載している寸法・質量などは、実際の製品と異なる場合があります。
■　実際の製品の仕様は、性能・機能改善のため、予告なく変更することがあります。
■　取扱説明書の中のイラスト・写真と実物が、一部異なる場合があります。

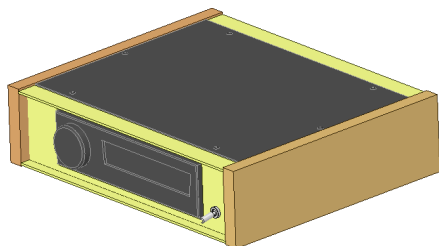
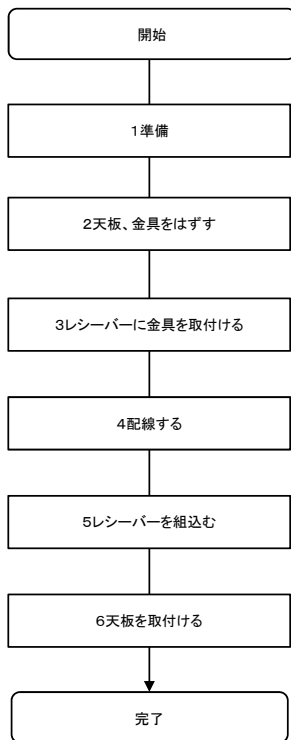
余白

電源付カーオーディオケース

LE801 -GW -BW

レシーバー組込み手順説明書

カーオーディオの中で、ラジオチューナー機能と音楽再生機能を有し、スピーカーを直接駆動できる装置を一般的にレシーバーと呼んでいます。そこで本組込手順説明書内では、組み込みの対象となるカーオーディオを**レシーバー**と表記しています

余白

レシーバー組込み手順

■全体の流れ

はじめに、LE801 にレシーバー（カーオディオ）を組込む全体の流れについて説明します。
なお、本手順ではページ左が図、右に説明を記載しています。

作業の詳細については、次ページ以降の各項目を参照して下さい。

1準備
組込みを始める前の準備について説明します。

2天板、金具をはずす
LE801 から天板、金具を取り外します。

3レシーバーに金具を取付ける
レシーバーに取り外した金具を取付けます。

4配線する
LE801 のコードとレシーバーのコードを接続します。

5レシーバーを組込む
レシーバーを LE801 に組込み、固定します。

6天板を取付ける
天板を取付けます。

1. 準備

■取り付け作業を始める前に

■取付けに必要な工具

ドライバ（中）

ドライバ（小）

ナットドライバ（対辺 7mm）

LE801 にレシーバーを取付ける前の「準備や作業上の注意点」について説明します。

レシーバー組込み手順を一読頂いた上で、本書の手順に従いながら、作業を行って下さい。

【ご注意】

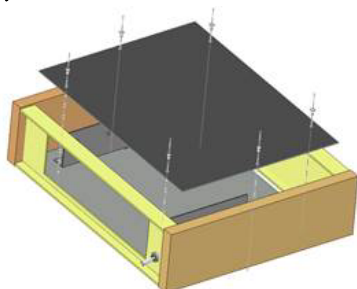
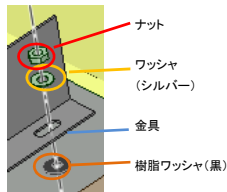
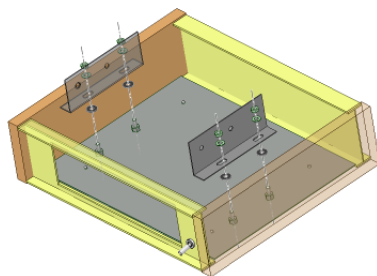
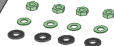
・ 不測の怪我等を防止するため、手袋をする等、十分注意して作業を行って下さい。
・ 配線の誤接続や、コードを傷つけること、ケースやレシーバーでコードを挟むことは機器を壊すだけでなく、火災の発生原因になります。
・ 作業を開始する前に、LE801 に AC アダプターが接続されていないことを必ず確認して下さい。もし、AC アダプターが接続されている場合は必ず外して下さい。
・ 取付け作業が完了するまで絶対に AC アダプターは接続しないで下さい。
・ 取付け作業は水気の無いところで行って下さい。

取付けに必要な工具は以下の通りです。

【必要な工具】
・プラスドライバ中、小
　ドライバ番号の 2 番（中）と 1 番（小）です。
・M4 ナット用　ナットドライバ（対辺 7mm、ボックスドライバ）

【あると便利なもの、必要に応じて使うもの】
・作業用手袋
・小さなケースやビニール袋など
　ネジやナット等、一時的に保管するため使用します。
・ピンセット
　ワッシャなど取る時などあると便利です。
・絶縁用テープ

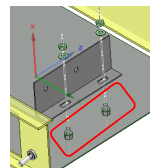
2. 天板、金具を外す

■天板を取り外す

■金具を取り外す

ドライバ(小)を用いて、天板にある６つの天板用ネジをとり、天板を取り外します。

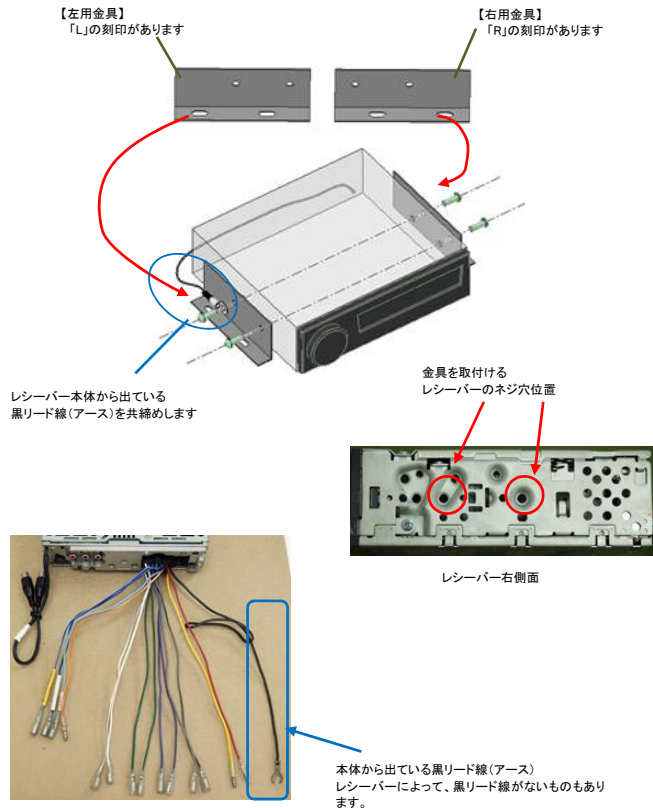
・ 天板用ネジは、後に天板を取付けるために必要になります。無くさないよう保管して下さい。

図のように、ナットドライバを用いて、４箇所あるナットをはずし、ワッシャ、金具、樹脂ワッシャを取ります。

・ 左右金具、ナット、ワッシャ、樹脂ワッシャはレシーバーを固定する際に使用します。天板用ネジと同様、無くさないように保管して下さい(ナット、ワッシャ、樹脂ナットはともに４つあります)。

・ 樹脂ワッシャの下にある足(ボス、下図赤枠)は外さないで下さい。

3. レシーバーに金具を取付ける

■レシーバーに金具取付ける
（レシーバー付属ネジを使用する場合）

説明	メモ

レシーバーに付属しているネジ（以降レシーバー付属ネジといいます）を用いて、「2天板、金具を外す」で外した「金具」をレシーバーに取付けます。

取り付けの際、金具のL/Rの刻印を確認し、左右を間違えないようにして下さい（右図参照）。

【ご注意】

レシーバー付属ネジがない場合は、必ず次ページの「レシーバー付属ネジがない場合」にしたがって、金具を取付けて下さい。取付け方を誤るとレシーバーを破損する、あるいはレシーバーが正しく固定できない原因になります。

左右金具をレシーバーのネジ穴位置にあわせ、ドライバ（中）を用いて、レシーバー付属ネジで固定します。

レシーバーから黒リード線（アース）が出ている場合は（写真青枠）、金具とともにレシーバーに共締めします（図青枠）。

※黒リード線（アース）を共締めする場所について
図では左奥側で共締めしていますが、共締めする場所は金具を止める4箇所のうち、つけやすいところでかまいません。

■レシーバー付属ネジがない場合

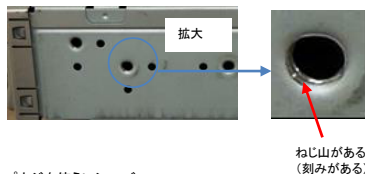
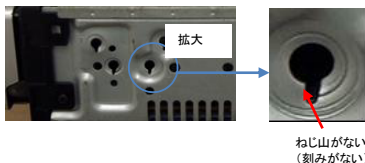
（LE801 付属ネジで金具を取付ける場合）

●ネジを選ぶ

・ミリネジを使うレシーバー

ねじ山がある
（刻みがある）

・タップネジを使うレシーバー

ねじ山がない
（刻みがない）

●「取付けネジの最大長」を確認する

・レシーバー取扱説明書での確認
　多くの場合、レシーバーの取扱説明書中の「取り付け」の章にレシーバー付属ネジサイズが記載されています。

・レシーバー側面での確認
　多くの場合、レシーバー側面にネジの最大長が刻印されています（以下写真赤枠）。

説明　　　メモ

ここでは、レシーバー付属ネジがなかった場合、つまり LE801 に付属しているネジを用いて、レシーバーに金具の取付ける方法について説明します。
※レシーバー付属ネジがある場合は前ページを参照して下さい

LE801 付属のネジを用いてレシーバーを取付ける場合は、レシーバーによって、「ネジの種類」と、「取付けネジの最大長からワッシャの枚数」を選ぶ必要があります。

●ネジの選び方
左写真のように、レシーバーには「ミリネジ」を用いているタイプと、「タップネジ」を用いているタイプがあります。
レシーバーにあわせて「ミリネジ」、「タップネジ」のいずれかを選択して下さい。

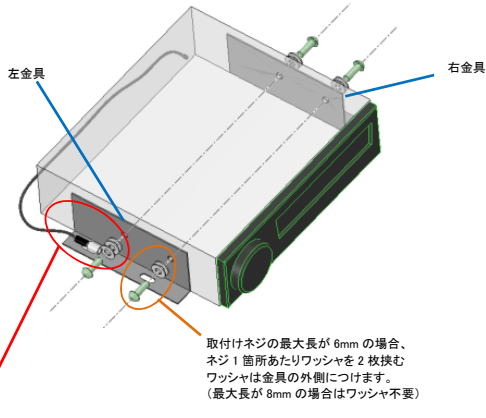
・ ミリネジ
　ミリネジで固定するタイプのレシーバーは、左上写真のようにレシーバー側面の取付け穴に「ねじ山（刻み）」があるものです。
　この場合、金具の取付けには「ミリネジ（黒）」を使用します。

・ タップネジ
　タップネジで固定するタイプのレシーバーは、左下写真のように取付け穴に「ねじ山（刻み）がないものです。
　この場合、金具の取付けには「タップネジ（シルバー）」を使用します。

●取付けネジの最大長の確認の方法
　レシーバー取扱説明書、あるいはレシーバーの側面にて「取付けネジの最大長」を確認します。

　この最大長によって、レシーバーに金具をネジ止めする際に挟むワッシャの枚数が変わります。

●レシーバー付属ネジがない場合(続き)
金具の取付け

「取付けネジの最大長」が 6mm の例

レシーバー本体から出ている黒リード線(アース)がある場合、
黒リード線の端子を金具に共締めします。

共締めする際の順番は、「金具、ワッシャ、黒リード線」の順になります。

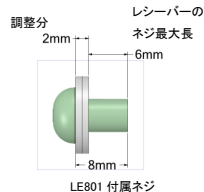
●補足説明:ワッシャの枚数

「レシーバーのネジ最大長」以下になるように、ワッシャを用いて LE801 付属ネジが入る長さを調整します。
LE801 付属ネジ長は 8mm、ワッシャ厚は 1mm です。

たとえば、図のように「レシーバーのネジ最大長」が 6mm の場合、調整分は、LE801 付属ネジ長 8mm から最大長を引いた値 2mm となり、これをワッシャで調整することになります。

付属ワッシャの厚みは 1mm ですから、最大長を越えないように挟むワッシャの枚数は 2 枚になります。

調整分 2mm÷ワッシャ厚 1mm=必要ワッシャ枚数 2 枚

LE801 付属ネジ

金具に刻印されている L:左、R:右を確認し、左右金具をレシーバーの穴位置にあわせて、ネジとワッシャで金具を固定します。

使用するネジは前ページの「ネジを選ぶ」で選択したネジです。

ネジと金具の間に挟むワッシャの枚数は、前ページで確認した「取付けネジの最大長」によって変わります(補足説明参照)。

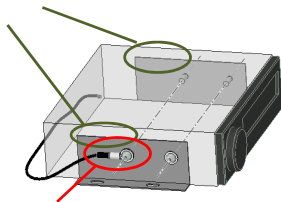
【ご注意】
「取付けるネジ」、「ワッシャ」の枚数を間違えると、レシーバーを破損する、あるいはレシーバーが固定できない原因になります。

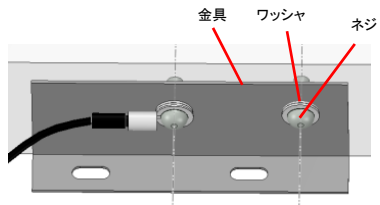
【ネジ最大長とワッシャ枚数】
最大長 6mm の場合:ワッシャ=2 枚 (2mm÷1mm=2 枚)
最大長 7mm の場合:ワッシャ=1 枚 (1mm÷1mm=1 枚)
最大長 8mm の場合:ワッシャ無し

左図の例は、レシーバーの「取付けネジの最大長」が 6mm の場合です。

「取付けネジの最大長」が 6mm の場合は、上記赤枠より、挟むワッシャの数は 2 枚となります。
つまり、ネジ 1 箇所あたり 2 枚のワッシャを挟むことになります。

レシーバーから黒リード線(アース)が出ている場合は、金具とともにレシーバーに共締めします(図赤枠)。

※黒リード線(アース)を共締めする場所について
図では左奥側で共締めしていますが、共締めする場所は金具を止める 4 箇所のうち、つけやすいところでかまいません。

■金具の取付けを確認する

【LE801 に付属しているネジで金具を取付けた場合】
金具、ワッシャ、ネジの順で固定されている

レシーバーに金具が正しく取付けられていることを確認します。
配線を行う前に必ず確認して下さい。

【確認項目】

・ 金具の左右は間違っていませんか？
取付けた金具は、左図のようにレシーバーの後ろ部分の幅が広くなります。
→「レシーバーに金具取付ける」(P25)を参照

・ レシーバー本体から黒リード線が出ている場合、金具に共締めされていますか？
→「レシーバーに金具を取付ける」(P25)を参照

・ ネジの緩みや金具に「がたつき」はありませんか？
→「レシーバーに金具を取付ける」(P25)を参照

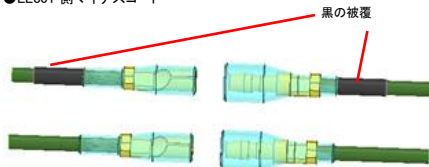
・ LE801 付属のネジを用いて金具を取付けた場合、ネジの種類、ワッシャの枚数はあっていますか？
また、ワッシャはネジと金具の間に入っていますか？
→「レシーバー付属ネジがない場合」(P27)を参照

4. 配線する

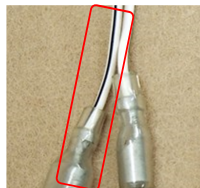
■接続するコード

色をあわせてコードを接続します。
下表にない色は接続しません。

コードの種類	マイナス(－)	プラス(＋)
フロント左スピーカー	白/黒(※)	白
フロント右スピーカー	灰/黒(※)	灰
リア左スピーカー	緑/黒(※)	緑
リア右スピーカー	紫/黒(※)	紫
アクセサリー電源コード	－	赤
バッテリー電源コード	－	黄

●LE801 側マイナスコード

上:マイナスコード(黒の被覆付)
下:プラスコード

●レシーバー側マイナスコード
レシーバー側のマイナスコードは、レシーバーにより異なります。
多くの場合、マイナスコードには黒いラインが入っています。

下写真赤枠がフロント左スピーカーのマイナスコード(白/黒)になります。

拡大

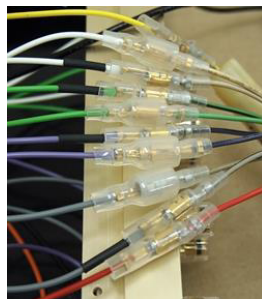
レシーバーから出ている
スピーカーコード

LE801 のコードと、レシーバーのコードを接続します。
接続するコードは表の通りです。

LE801 とレシーバーのコードには、それぞれ「ぎぼし端子」がついています。

LE801 とレシーバーの「コードの色」、ぎぼし端子の「オス、メス」をあわせながら接続します(ぎぼし形端子の接続方法は次ページを参照して下さい)。
接続するコードは全部で 10 本です。

【ご注意】

接続に際して、絶対にコードの色を間違えないようにして下さい。
コードの色を間違えて接続すると、正しく動作しない原因やレシーバーが壊れる原因になります。

【接続するコード】
写真上から

黄色　バッテリー電源
白　　フロント左スピーカー(＋)
白/黒　フロント左スピーカー(－)
緑/黒　リア左スピーカー(－)
緑　　リア左スピーカー(＋)
紫/黒　リア右スピーカー(－)
紫　　リア左スピーカー(＋)
灰　　フロント右スピーカー(＋)
灰/黒　フロント右スピーカー(－)
赤　　アクセサリー電源

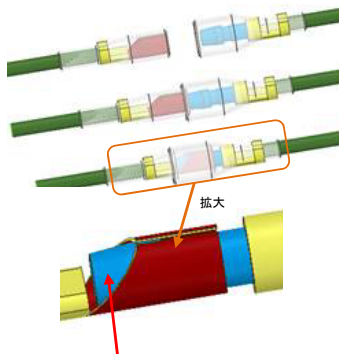
計 10 本

コードの接続例
左が LE801 側のコード、右がレシーバーのコード

【ご注意】
レシーバーによって、表にない色のコードがあります(例えば橙色のコード)。これら接続しないコードについては、「接続しないコードの扱い」を参照して下さい。

【補足:ぎぼし形端子の接続方法】

●ぎぼし形端子のオスとメス

●ぎぼし形端子の接続

メスの根元にオスの頭がでるまで差し込む

※わかりやすくするため、図では端子先端部分を着色しています。
またスリーブ(端子用のカバー)も省略しています

説明	メモ

ぎぼし形端子には、左上図のようにオス端子をメス端子があります。

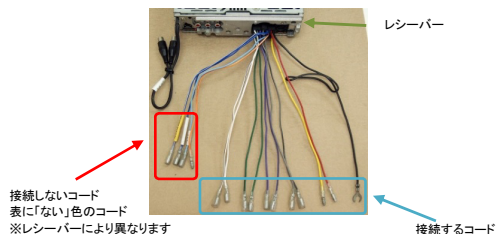
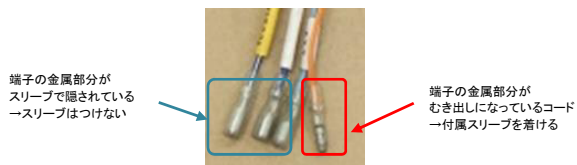
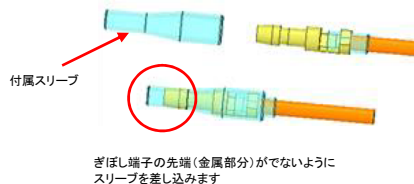
ぎぼし形端子の接続は、図のように「オス端子の頭」が「メス端子の根元」にでるまで差し込みます。
(ぎぼし形端子のオスとオス、メスとメスは接続できません)

■接続しないコードの扱い

●接続しないコード

●むき出しのコード

●付属スリーブをつける

ぎぼし端子の先端（金属部分）がでないように
スリーブを差し込みます

レシーバーによって、LE801 と接続しないコードがあります。
これら「接続しないコード」の扱いについて説明します。

レシーバーの接続しないコードは、「LE801 本体」や「他のコード」と接触しないようにする（絶縁する）必要があります。

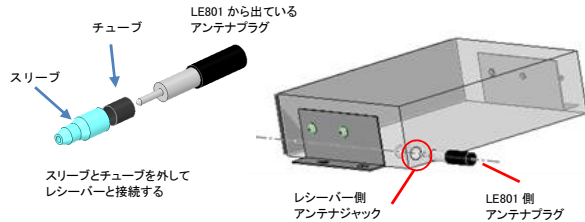
特に、レシーバーによって、接続しないコードの端子がむき出し（スリーブなどで端子の金属部分が隠されていない状態）になっているものがあります（写真）。

これらむき出しになっているコードは、図のように LE801 付属のスリーブをつけるか（左図）、または絶縁テープ（ビニルテープ等）を用いて必ず絶縁して下さい。

もし、銅線がむき出しになっているコードがある場合も同様に、絶縁テープ（ビニルテープ等）を用いて、絶縁して下さい。

【ご注意】

絶縁が行われていないと、正しく動作しない原因やレシーバーが壊れる原因になります。

■アンテナプラグの接続
（レシーバーにジャックがある）

レシーバー側 アンテナジャックの例
ジャックの場所、形態はレシーバーにより異なります。
本体にジャックがあるもの（左下）、本体からコードを介してソケットになっているもの（右下）など
があります。また、レシーバーによってはアンテナジャックがないものもあります。

アンテナジャックの例

■レシーバーにアンテナジャックがない場合

絶縁のため、付属のスリーブとチューブを取付ける

レシーバーにアンテナジャックがある場合は、「LE801 のアンテナプラグ」を取付けます（※）。

取付ける場合は、アンテナプラグについている「スリーブ」と「チューブ」を外した上で、レシーバーのアンテナジャックに奥まで差し込みます。

※レシーバーによっては、アンテナジャックがないものもあります。この場合は、アンテナプラグを接続する必要はありません。アンテナプラグを接続しない場合は、LE801 のアンテナジャックについている「スリーブ」と「チューブ」は外さないで下さい（絶縁のため）。

※取り外した「スリーブ」と「チューブ」は、アンテナジャックのないレシーバーを取付ける場合に使用するため、保管しておいて下さい。

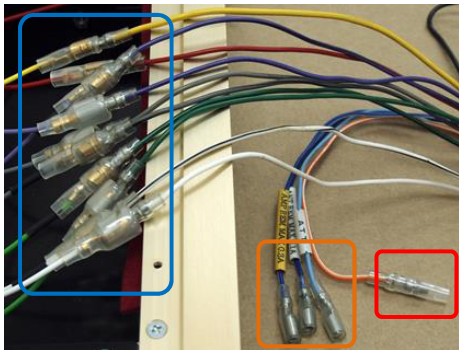
レシーバーにアンテナジャックがない場合は、「チューブ」、「スリーブ」の順でLE801のアンテナプラグに「チューブ」、「スリーブ」をかぶせます（絶縁のため）。

なお、アンテナプラグに既に「スリーブ」、「チューブ」がついている場合（絶縁されている場合）は、この作業は不要です。

【ご注意】

絶縁が行われていないと、正しく動作しない原因やレシーバーが壊れる原因になります。

■配線を確認する

配線例

・青枠：接続したコード：10 本
・赤枠：端子の金属部分がむき出しのため、「スリーブをつけた」未接続コード
・オレンジ枠：端子の金属部分がスリーブで隠れている未接続のコード
（スリーブで隠れているため、スリーブは着けていません）

接続したコードが正しく接続されているか確認します。
LE801 に組込む前に必ず確認して下さい。

配線が間違っていた場合には、正しく接続し直します。

【確認項目】

・ 同じ色のコード同士が接続されていますか？
また、接続したコードは全部で 10 本ありますか？

白、白/黒
緑、緑/黒
紫、紫/黒
灰、灰/黒
赤
黄

計 10 本

→「接続するコード」（P33）を参照

・ 端子の金属部分やコードの銅線部分が「むき出しのまま」になっているコードはありませんか（絶縁されていますか）？
→「接続しないコードの扱い」（P37）を参照

・ ぎぼし形端子はしっかり接続されていますか？
→「接続するコード」（P33）を参照

・ レシーバーにアンテナジャックがある場合、アンテナプラグは差し込まれていますか？
アンテナプラグが差し込まれていない場合、アンテナプラグに「スリーブ」と「チューブ」がついていますか（絶縁されていますか）？
→「アンテナプラグの接続」（P39）を参照

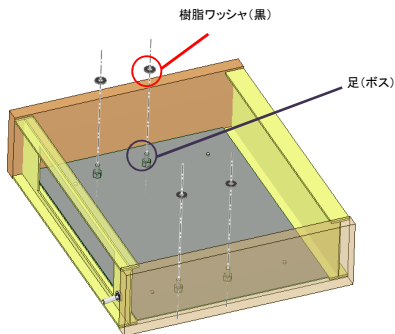
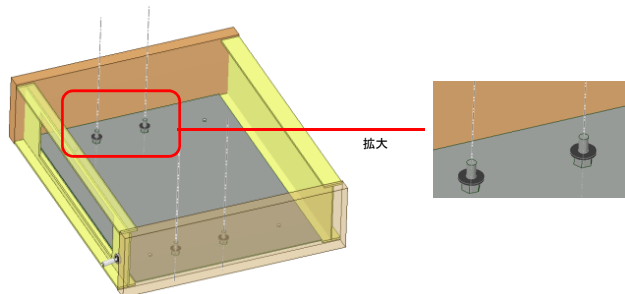
※LE801 から黒リード線がでていますが、このリード線は次のレシーバーの固定で使用します。

5レシーバーを固定する

■レシーバーを入れる

●樹脂ワッシャをつける

【樹脂ワッシャをつけたところ】

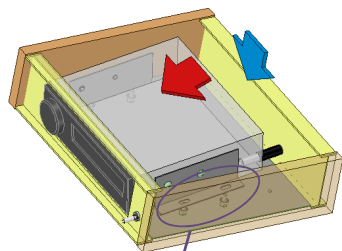
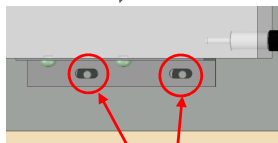
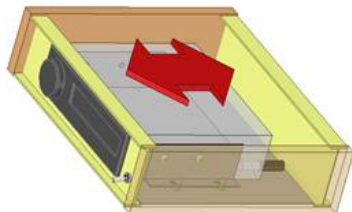
説明　　　　メモ

配線の確認が終わったら、レシーバーを LE801 に組込みます。
（図では配線したコードを省略しています）

図のように「3. 金具を取り外す」で外した「樹脂ワッシャ」を底板の足（ボス）につけます。
樹脂ワッシャは全部で 4 枚あります。

※樹脂ワッシャとワッシャの見分け方
　樹脂ワッシャは黒、ワッシャはシルバーになっています。

●コードを挟まないようにレシーバーを入れる

■前後を調整する

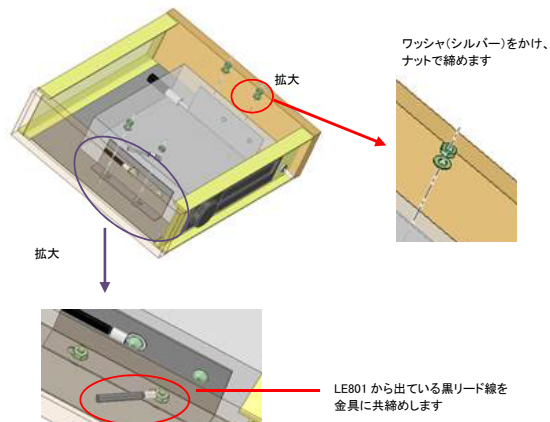
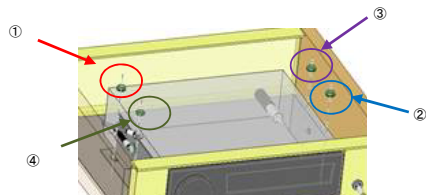
説明	メモ

レシーバーのフロント部分を LE801 のフロントパネルの穴に入るよう、レシーバーを斜めにして差し込みます（赤矢印）。

このときレシーバーがコードや、フェルトをかまないように気をつけて下さい。

【ご注意】
レシーバーを入れる際、レシーバーや金具でコードを挟むと（左図）、コードの断線やショートすることにより、レシーバーが動作しない原因や壊れる原因になります。

金具の穴から、底板のネジが見えるようにレシーバーの位置を調整し、底板のネジが見えたら（左下図）、底板のネジが金具の穴に入るようにレシーバーを組込みます（青矢印）。

矢印のようにレシーバーを前後動かし、レシーバーを好みの位置に調整します。

■レシーバーを固定する

●補足:ナットの締め方

レシーバーの位置が決まったら、ナットドライバを用いて、レシーバーをワッシャ(シルバー)とナットで固定します。

このとき、「LE801 から出ている黒リード線(アース)」を共締めします。

※レシーバーを固定するナットとワッシャ(シルバー)は、「3金具を取り外す」で取り外したものを使用します。

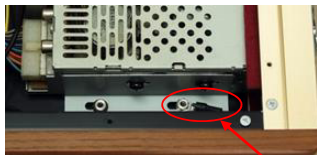
※黒リード線(アース)を共締めする場所について
図では金具の左手前に共締めしていますが、共締めする場所はナット 4 箇所のうち、つけやすいところでかまいません。

※ナットを締める際には、4 つのナットを均等に締めるようにして下さい(補足参照)

固定が終わったら、配線したコードをまとめて、LE801 の中に入れます。
コードをまとめる際、付属の結束バンドをご利用下さい。

ナットはたすき掛けになるように締めます。

たとえば、左図のように①、②, ③、④の順で軽くナットを締めた後、再び①、②, ③、④の順でナットをしっかり締めます。

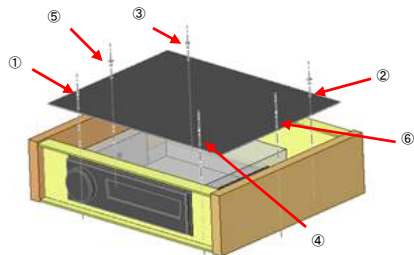
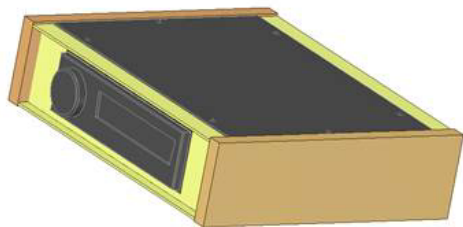
■レシーバーの組込みを確認する

LE801 のリード線

レシーバーが正しく組込まれているか確認します。

【確認項目】

- レシーバーや金具でコードを挟んでいるところはありませんか？
  →「レシーバーを入れる」（P43）を参照
- レシーバーに「がたつき」はありませんか？
  →「レシーバーを固定する」（P47）を参照
- 金具を固定しているナットに緩みはありませんか？
  →「レシーバーを固定する」（P47）を参照
- LE801 の黒リード線（アース）は金具に共締めされていますか？
  →「レシーバーを固定する」（P47）を参照

6. 天板を取付ける

■天板を取付ける

■組込み完了

レシーバーの固定が終わったら、天板を取付けます

天板のネジは「3天板を取り外す」で取り外したネジを使用します。
ネジを締める場所は 6 箇所です。使用するドライバは小です。

ネジ締めもナットと同様、たすき掛けになるように締めます。

【ご注意】
天板を止める時、コードを挟まないようにして下さい。
コードを挟むと、コードの断線やショートすることにより、レシーバーが動作しない原因や壊れる原因になります。

これで組込みは完了です。
お疲れ様でした。

スピーカーとの結線、アンテナとの接続については、それぞれスピーカーの結線、アンテナの接続を参照して下さい。

修理とアフターサービスについて

修理には専門的な知識及び技術が必要です。
誤った修理は、火災や感電などの危険な事故につながりますのでおやめください。

こんな症状はありませんか
・AC プラグ、AC アダプター、コードが異常に熱い。
・本体からコゲくさい臭いがする。
・AC プラグ、AC アダプター、コードに深い傷があったり変形している。
・電源を入れても正常に作動しない。
・その他異常・故障がある。
↓
すぐに使用を中止してください。
事故防止のため AC プラグをコンセントから抜き、必ずお買い上げの販売店または弊社にご相談ください。

保証について

■この製品には保証書がついています。
保証書には販売店で発行されたお買い上げ日が確認できる書類等を貼付して所定事項を記入し、記載事項をご確認のうえ、大切に保管してください。

■保証期間はお買上げ日から 1 年間です。